

平成23年度 第5回印西市地域公共交通活性化協議会 会議録

開催日時	平成24年2月3日（金） 14時から
開催場所	印西市役所農業委員会会議室
出席者	中澤浩二会長、上條公司副会長、遠藤和孝委員、山田敏文委員、戸村静夫委員、根本久子委員、津留崎隆史委員、小関征二委員、小林久男委員、瀬戸雅一委員、日比生則子委員、唐澤隆治委員、豊泉委員（代理 柿澤幸雄氏）、林 競委員、佐藤信之委員、岩崎英一委員、池田和弘委員、木村 節委員、山本大助委員、鶴岡敏明委員
欠席者	石井 隆委員、松鶴照明委員
事務局	企画政策課 鈴木課長、染谷課長、酒井室長、飯島主査補、石鍋主事
傍聴者	1名

1. 開会
2. 議題
(1) ふれあいバスの実証運行における事業評価ガイドライン（案）について
3. その他
・ふれあいバスの実証運行の利用状況とアンケート調査結果
4. 閉会

1. 開会

（事務局）

会議に先立ちまして、資料の確認をさせていただきます。

- 資料1 ふれあいバス実証運行における事業評価ガイドライン（案）
- 資料2 ふれあいバス新規2ルートの利用状況
- 資料3 ふれあいバス実証運行のアンケート調査結果

当日の配布資料として、

- 会議次第
- 席次表
- 平成23年度ふれあいバス運行委託費（見込み）について

議事に入ります前に、本日の委員の出欠につきまして、ご報告いたします。

石井委員、松鶴委員におかれましては、所用により出席できない旨、ご連絡をいただいております。また、都市交通タクシーの豊泉委員の代理で、柿澤部長様にご出席いただいております。なお、本日の出席委員は20名で、協議会規約第9条第2項により、会議が成立いたしますことをご報告いたします。

また、本日の会議につきましては、協議会規約第9条第4項により、公開とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

会議の傍聴でございますが、傍聴の申し出があり、入室していただいておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、議題に入らせていただきます。議事進行につきましては、協議会規約第9条第1項の規定により、会長が議長となるとされておりますので、中澤会長に議事進行をお願いいたします。

それでは、議事の進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。
議題に入ります前に、本日会議の議事録確認者について、指名させていただきたいと思っております。

本日会議の議事録確認者につきましては、遠藤委員にお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

2. 議題

議題（1）ふれあいバスの実証運行における事業評価ガイドライン（案）について

（会長）

それでは、議題に入らせていただきます。

議題の（1）ふれあいバス実証運行における事業評価ガイドライン（案）について、事務局から説明をお願いします。

事務局 資料1 説明

（会長）

ただいま、事務局から、実証運行における事業評価ガイドライン（案）について、前回の変更点について説明がありましたが、何かご質問はございますか。

（委員）

3ページの利用状況ですが、この目標値が達成されると4費用効率面に「運行経費に対する運賃収入の割合10%以上」とありますが達成されるのでしょうか。

（事務局）

利用者数と収支率につきましては、リンクしていないところがあります。障害者の方や小学生以下の方が無料となっておりますので、必ずしも人数と収支面が比例するものではありません。この10%の根拠は、既存のふれあいバス4ルートが平成18年にルート改正して運行しました。平成18年12月からの当初4ヶ月の平均の収支率が約7%で、その値を参考にして実証運行の当初の目的として10%としました。今後実証運行には利用促進を図りながら利用者数、収支率をあげていき、目標値もあげていきたいと考えています。なお既存の4ルートの現在の収支率は20%であります。

（委員）

6ページの目標利用者数は高齢者数に基づいているというが、アンケートで布佐ルートの利用者の年齢層は他の印西市内のルートとちがっている。なぜ高齢者に基づいているので

しょうか。

(事務局)

当初利用者予測をする際にルートを設定した沿線の中でバスを利用していただける可能性のある方として高齢者として、今回は高齢者の数をベースに試算している。

(委員)

高齢者は何歳の方を言っているのでしょうか。資料3の17頁に65歳以上と高齢者を使い分けているので、高齢者は何歳以上なのでしょう。使い分けている理由があるのでしょうか。

(事務局)

目標値を設定した際の高齢者は65歳以上です。資料3のアンケートは65歳以上として、アンケート回答者の年齢を使用していますが、高齢者は※印で注釈をつけているのですが、目視により判断したので正確に65歳以上か判断できないので目視によるものを高齢者としました。アンケートの回答者と実際の利用者が一様にならないので、目視の利用状況も付け加えた方が良いと判断しました。

(会長)

他にご質問等ございませんか。

特にないようですので、ふれあいバス実証運行における事業評価ガイドライン(案)について、ご異議ございませんでしょうか。

(委員)

異議なし

(会長)

異議なしと認めます。

ふれあいバス実証運行における事業評価ガイドライン(案)について、承認されました。本日いただいたご意見を踏まえまして、事務局のほうで検討をすすめていきたいと思えます。

3. その他

(会長)

続きまして、その他に入りたいと思います。

ふれあいバスの実証運行の利用状況とアンケート調査結果について、事務局から説明をお願いします。

事務局 資料2説明

(事務局)

補足説明したいと思います。年末年始の利用状況の件でございますが、6頁の棒グラフの濃い色が年末年始の利用状況を示しています。かっこ書きで7割減、6割減とある数字は平日と比較しました年末年始の値で、7割減とは平日の3割程度しかない、約1/3ということです。先ほど承認いただきました事業評価ガイドラインの中に、休日運行の乗車数の指標が平日の50%とありましたが、年末年始の利用者数は3割程度なので目標には達していないということです。

運行開始した9月からの休日の利用状況を見ますと10月は9月の4%、11月は2割増えていますので徐々に休日運行が市民の皆様に浸透してきているのかなと感じています。布佐ルートと印旛支所ルートは当初から毎日運行なので、平日と休日の差がないのではないかと考えております。昨年のアンケートで75%の方が休日にも運行してほしいということでしたので、今後もPRをしながら利用促進に努めていきたいと考えています。

(会長)

ただいま実証運行の利用状況について説明がありましたが、これについてご質問があればお願いいたします。

(委員)

布佐ルートと一部区間が重複する西ルートの利用者が布佐ルートに流れて、西ルートの利用者が減ってきているのではないかと説明がありましたが、実際に自分のことですが、直接行く西ルートで15分が布佐ルートでは30分かかります。時間がかかる布佐ルートでも目的地につく時間があるのなら利用しているので、多少流れていると思います。我孫子市都地区の中はカーブで運転手さんは大変なコースだと思います。市役所から行く場合は、多少図書館でも時間をつぶして西ルートを利用した方がはやいと思います。

16:10だったと思うのですが、亀成に行くのに西ルートと布佐ルートが同時発車もあるので、時間の調整をした方が良いとおもいます。

(事務局)

ただいま、貴重なご意見をいただきましたので、その辺を今回実証運行ということでやっておりますので、検討させていただきたいと思います。

(委員)

1頁の折れ線グラフの実線の細かいピークがあるが、どうしてあるのか説明をしていただきたいと思います。曜日と関係あるのかと思い定規であててみたが、それもまともを得ていないようなので、例えば卓球大会があつてということは分かるのですが、他の針のようなピークはどうして、こうなったのでしょうか。

(事務局)

この沿線に松山下公園があり、野球場や体育館があります。そちらで市のイベント等ありますときに小学校など団体でご利用いただいていることを把握しています。

(委員)

このピークは布佐ルートで、布佐ルートは大森小学校にも行かないし、ニュータウンからくるのかわかりませんが、どうして布佐ルートでピークがあるのか聞いているのですが。

(事務局)

かなり他のルートより突出しているの、団体利用があると思うのですがデータを確認させていただきたいと思います。

(委員)

布佐ルートのアンケートの実施ですが、他のルートとかなり状況がちがって幅広い年齢層が利用している。もう一度アンケートをされた方が良いと思います。利用状況の中の年代層はどのようになっているのでしょうか。

(事務局)

アンケートを回答した年代層については、次のアンケート結果の中で説明させていただきたいと思います。

(委員)

利用状況は1年を通してみないとわからないと思いますが、1月は非常に寒くなっているが利用状況はわかるのでしょうか。

(事務局)

1月は1から3日はわかるのですが、過去のふれあいバスの状況から1月、2月、3月は季節柄かもしれませんが、他の月より減少傾向にあります。月当たりになると千人以上少なくなっております。春になり6月から9月と増えてきます。冬になると外出を控える方もおるとお思いますので、少ない傾向にあります。

(会長)

他に質問ありますでしょうか。ないようですので、アンケート調査結果について、事務局から説明をお願いします。

事務局 資料3 説明

(事務局)

補足説明したいと思います。アンケートのサンプル目標数ですが、前回の会議の中でアンケートの目標数を各ルートの1日当たりの利用人数として、布佐ルートは60、印旛支所ルート40と設定し説明したのですが、数値が低いのではないかと指摘を頂き事務局で再度検討しました。1日相当人数の2倍以上は集めたいと実施しております。

(会長)

説明いただいたことにご質問等お願いします。

(委員)

アンケートは年齢層からまんべんなく得たということですが、先日布佐ルートに乗ったのですが、12月25日から28日に学校が休みで小・中・高校・大学生それから主婦の方が多く乗っていました。8月以降の協議会資料では印西市内のルートでは高齢者が多い。布佐ルートは平常の時の実態をもう一度やった方が良いのではないかと思います。若い人がこれだけ多く乗っているとこれから計画すると想定する数値が違ってくる。他のルートと同じやり方では相当ちがってくるのではと疑問を感じていました。

(事務局)

ただいま貴重なご意見をいただきましたので、事務局で検討したいと思います。

(委員)

12頁(5)利用の目的の買い物57%の説明があったが資料には76,57%とあるがどういことですか。また布佐ルートは棒グラフ、印旛支所ルートは円グラフ中心でグラフが違うので、比較するときに見にくいので今後あわせた方が良いと思います。意味があるのなら説明ください。

(事務局)

1頁にグラフの見方の補足説明にありますように76,57%は76人、57%の意味です。見にくいので今後改めたい。グラフの種類についても今後資料作成するときは、改善したいと思います。

(委員)

16頁の自由意見にあるお礼や運行継続は事業がうまくいくためにも非常に良いと思います。「運転手が親切」というおほめのことは、生の声で良いので運転手に伝えてあげると安全運行上良いと思います。伝えることにより、もっと良いふれあいバスになると思うので、是非やってほしい。

(事務局)

貴重な意見を頂きましたので、運転手さんにも伝えたいと思います。

(委員)

先ほどの意見にもありましたが、私が日曜日に乗った時に大森北から小学生が10人位乗ったのを1月に見ました。そういったことも周期的に期間が限定されると入っていないのではないのでしょうか。運転手さんへのお礼のことはについても、利用者も降りるときに「有り難う」といって降りていく方が結構いるのです。そういうことも運転手さんのはげみにもなるのではないかと感じました。

(事務局)

今後も見直しをする中で、調査の不足分や確認すべき事、例えば現地の確認やODなど適宜行っていきたいと考えております。

(委員)

アンケートの回答数からいきますとやや満足の程度は高いと思います。十分住民の意見を反映した回答数は得ていると思うのですが、アンケートで不満またはやや不満は運行数やルートに集中しているように思う。今後ガイドラインとの関係で、どのような形で改善していこうとしているのか方向性があればと思います。もう一点個人的な感じが入ってしまって申し訳ないのですが、私は旧印旛村の吉高台団地というところで、現在バスルートは1つしかない。意見が出ていまして、吉高台団地まで延伸してほしいとか印旛支所ルートが千葉ニュータウンの方まで行ってほしいという意見が出ているのですが、この扱いについてどうするのか。あと前からでていたのですが印旛支所ルートは本埜支所をまわる考えがお金の問題などあるのでしょうか、でてこないのか、要望と考え方について教えてほしいと思います。

(会長)

今のご質問は非常に重要なことだと思います。このアンケートの結果を次のステップでどのように活かしていくかということだと思います。その点につきまして、今後の方向ということで事務局の方から説明をお願いしたいと思います。

(事務局)

実証運行につきましては、一昨年公共交通の連携計画を策定した際に決められたルートでございます。そのルートを昨年9月に実施しまして、このルートはこれからの本格運行に向けてどのような課題があるのかということに対して、皆様にご意見を頂いています。その意見を伺った上で、このルートをより良くするにはという点を今後考えていきます。時間、ルート、運賃などの意見がありますが、改訂できるものは実施していきたいと考えています。予算が伴うことや様々な問題があり難しいとおもいますが、可能な限り早期に、この会議でお伺いしながら改善点を踏まえた新しい実証運行をしていきたいと思っております。また吉高台団地、本埜支所のルートにつきましても、今回の公共交通連携計画の中で、あと2年間、そういったことを踏まえながら新しいネットワークを作っていきたいと考えております。

(委員)

本埜支所については、印旛支所から本埜支所を通過して市役所までくるルートがバス停は少なくても良いのであったら良いと思います。利用客は少ないと思いますが、何か事業をするときに印旛の方が、市役所にこられる手段がないので苦労されていて、参加される方が少なく困っています。

(会長)

本日は、利用者の状況とアンケートなどの報告をしていただいたということですので。今後の対応については、事務局でいろいろ検討して早期にご提案をしていただいて、ご意見

を頂きながら考えて、より良いふれあいバスの方向を目指していきたいということで、よろしくお願い致します。

(委員)

今回は報告ということもわかるのですが、「その他」ということで要望を受ける時間を会議の中でとってほしいと思います。市民代表という形で参加している方も多く、私も要望を聞いてきています。中ルートと西ルートで木下や大森小学校で乗るときに、座れる場所がなくなっていることがある。人数が多いときに、もう少し大きい車両を将来的にも考えてほしいと思います。

(会長)

ご意見、有り難うございます。それでは利用状況アンケート調査についてよろしいでしょうか。

(委員)

はい。

(会長)

ただいま要望がございましたが、皆様から何かありましたらお願い致します。ないようでしたら、事務局の方で何かございますか。

(事務局)

まず、ふれあいバスの時刻表の増刷についてでございます。現在ふれあいバスにつきましては既存の4ルートと実証運行の2ルートを含めて、全部で6ルートを運行しております。時刻表は既存の4ルートのA2版6つ折りのもの、実証運行ルートはA4版両面で作っています。市民の皆様から6ルート一緒になったものを作ってもらえないか、その方がわかりやすいという意見を頂いております。既存の4ルートの時刻表の在庫が少なくなったこともありまして、今回実証運行の利用促進という意味合いも含めまして、協議会の予算を頂いて増刷させていただければと考えています。

なお時刻表の版については、既存の版があって安価でできるのではないかと考えております。一方、市ではふれあいバスと一般の民間バスも含めた市内のバスマップを作成できないかということも検討項目になっております。当面の分として、ふれあいバスの6ルート分を作成させていただければと考えております。この見積もり等とりまして次回以降の協議会で説明させていただければと思っております。

2点目ですが、資料の中に平成23年度ふれあいバス運行委託費(見込み)というものがあります。前回の会議で運行委託費の根拠がわかりづらいという質問を頂いております。次回の協議会で説明することになっていました。平成23年度は運行委託費は約6,000万円となっております。1頁に試算の仕方が説明してありますが、運行委託費は、運行経費から運賃収入を差し引いた額で算出しております。

(会長)

バスの時刻表と運行委託費について説明がございましたが、これについて意見がありますか。

(委員)

布佐ルートの補助は印西市のみでもっているのか、我孫子市の利用者も多いので、どうなっているのでしょうか。

(事務局)

説明不足で申し訳ありませんでした。市のふれあいバスは市が運行主体となっていることから、印西市がバス事業者と運行契約を結んで、印西市が委託費を支出しております。布佐ルートにつきましては、我孫子市も通っておりますことから、我孫子市から負担金ということで印西市に一部お金を頂いています。

(委員)

その金額がこの運行委託費の中に含まれているということですか。

(事務局)

運行委託費 6,000 万の中に我孫子市の負担金も含まれております。印西市の負担はこの額より少なくなっております。

(会長)

他に何かございますか。ご意見がないようでしたら、以上をもちまして、本日の議題はすべて終了いたしました。議事進行にご協力いただき、ありがとうございました。

(事務局)

以上をもちまして、「平成 23 年度第 5 回印西市地域公共交通活性化協議会を終了いたします。長時間にわたり慎重審議、誠にありがとうございました。

平成 23 年度第 5 回印西市地域公共交通活性化協議会議の会議録は事実と相違ないことを承認する。

平成 24 年 4 月 18 日

印西市地域公共交通活性化協議会

委員

遠藤 和孝